

# 第62回"社会を明るくする運動"

～犯罪や非行を防止し立ち直りを支える地域のチカラ～

## "社会を明るくする運動"をご存知ですか？

"社会を明るくする運動"は、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生(立ち直り)について理解を深め、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする、法務省主唱の全国的な運動です。

この運動のシンボルマークである「黄色い羽根」は、過ちを犯した人の更生を支え、再び犯罪に手を染めさせないというネットワークを大きく広げていきたいという思いが込められています。



## 7月は強調月間です

町では、6月25日に町長を委員長に、推進委員会を組織しました。犯罪や非行をした人の立ち直りや、犯罪や非行に陥らないよう地域社会で支えることなど「やり直せる社会」を目標に、保護司会や更生保護女性会、学校関係者などが中心となり街頭キャンペーンや小中学生作文募集などの啓発活動を行います。

問合せ 健康福祉課 ☎029 - 240 - 6550

## 俳句

田水張り境内の杉伐採す  
飯田 勇一  
余震なほ続き鈴蘭香りけり  
鯉淵寿美恵  
山桜晴れたらいいねリュックサック  
いそべきよ  
在りし日の会話思へり余花の  
今瀬多代美  
椅子  
店頭のパケツにそよぎ余り苗  
寺門 孝子  
水芭蕉湿原に泡湧き出せり  
森 静江

## 文芸しるさと

## 短歌

紅色の淡くやさしい京かのこ  
咲き初むるとき水無月迎ふ  
大森 久子  
見なれたる山路のほとりさくら  
咲き季の芽吹きは彩り添ふる  
青柳 京子  
春泥に気を配りつつ畑中へ行  
けば可憐に咲けるはずしろ  
杉山みちこ  
放映の三春滝桜観る度に友と  
訪ひたるかの日還り来る  
所 美恵子  
枝離り舞ひ散るさくら一ひらの  
ひとひらづつの小ささいのち  
渡辺千紗子

休日の名水巡り新茶汲む  
袴塚よし子

盛り上げし畝ふつくらと茄子  
植うる  
仲田まちゑ

一对の櫛の若葉鳥の声  
竹内 幸子

じゃがいもの花の紫畝長し  
飯村 昭子

子等の声田の中にあり夏の雲  
一杉 常子  
万緑に胸まで沈めいだらばう  
瀬谷 博子  
挿秧の原理の駆動田植終え  
岩下 金司

花房が風にゆれいる藤の花地  
震のあとに心癒さる  
秋山 愛子

「頑張って」と言ふはむごしと  
思へども病みるる友に他に言  
もなく  
山形 式妙

門道の色とりどりの花の咲く  
小さな畑の草取りをする  
鶴田 すが

せせらぎの音ききながら露天  
風呂若葉輝り映う大子の里に  
菌部 光子

銅板に葺替り屋根の輝きは東  
日本の復興を見る  
富田 欽子

花房の重きに垂れて山の藤水  
面にふるる淡き紫  
枝 不美

目も耳も衰えしるくになりてゆ  
く夫頼りつつ春夏通し  
片見 和枝

静寂は鏡の如し水芭蕉  
田口 勝元

## 川柳

病院へお勤め様と違えられ  
青木新三郎  
ケイタイに縁無き婆のえびす顔  
富田 多蔵  
君のよう生きてみたいよすぎ  
なんぼ  
飯村 孝一

川浴ひに垂るる山藤の神秘さ  
に心うたれてしばし眺むる  
川上千代子

震災の地に夏はふたたびめぐ  
り来て更地に祈る女性に涙す  
島 愛子

山肌はシャクナゲ彩ふ霊場  
にて水の旨さをありがたく受く  
多田志保子

病みてより気弱くなりぬ老いの  
身は腰の痛みに歩みもおそし  
坪井きよ子

佐渡のトキ無事に巣立ちて安堵  
せり自然界にて逞しく生きよ  
萩谷登喜子

残雪の前白根見ゆカッコウの  
声響きくる清しき風に  
富田佐智子

いち早く文芸ふるさと聞き見る  
愛する故郷盛り上げる歌なり  
川原 清